

### ①権威者からイエスへの問い

イエス様は神殿から商人を追い出して清められた後、そこで毎日教えておられました。そのようにイエス様が民衆に教え、福音を宣べ伝えていたある日、祭司長や律法学者や長老たちがイエス様のもとに近づいてきました。彼らはイエスが神殿で教えていることを快く思わず、殺そうと企んでいました。しかしイエス様は民衆からの人気があったため直接手を下すことはできずにいたのです。そんな彼らがイエス様に次のように問いました。

「我々に言いなさい。何の権威でこのようなことをしているのか。その権威を与えたのはだれか。」

祭司長、律法学者、長老というのはユダヤ教の最高法院サンヘドリンの構成メンバーでした。彼らはエルサレム神殿においても権威を持っていた人々です。その彼らがイエス様に「どんな権威でこのようなこと」すなわち「神殿で教えたり福音を告げ知らせたりしているのか」と問いました。また「その権威を与えたのはだれか」という問いましたが、その背後には「我々はそんな権威をあなたに与えていない」ということがあったのでしょうか。そうして彼らはイエスが権威を与えられていない部外者であることを明らかにし、民衆に教えたり福音を語るのを止めさせようとした、妨害しようとしたのです。

### ②主イエスによる問い返し

それに対し、主イエスは次のように問い返されました。

「では、わたしも一つ尋ねるから、それに答えなさい。ヨハネの洗礼は、天からのものだったか、それとも、人からのものだったか。」

洗礼者ヨハネは「罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた」人物です（ルカ 3:3）。そのヨハネの悔い改めのメッセージや洗礼が「天からのもの」、すなわち神に由来するものであったのか、それとも「人からのもの」、単に人間から出たものであったのか。そのことをイエス様は彼らに問い返されたのです。

イエス様がこのとき洗礼者ヨハネのことを問い返されたのは、ヨハネが主イエスに先立って、主の道を準備するために遣わされた人物だったからです。それゆえそのヨハネを天（神）からのものと認めるか否かは、主イエスの権威を天（神）からのものと認めるか否かということと密接に結びついています。

### ③権威者たちの議論と逃げ口上

彼らは相談を始めました。

『天からのものだ』と言えば、『では、なぜヨハネを信じなかったのか』と言うだろう。」

彼らは洗礼者ヨハネのことを信じず、悔い改めて彼から洗礼を受けることをしませんでした。ですからヨハネの洗礼が「天からのものだ」と答えても、イエスから「では、なぜヨハネを信じなかったのか」と矛盾を指摘されてしまう。彼らはそのように考え、それを避けようとしていました。

では「人からのものだ」と答えたらどうなるか。彼らはこう言っています。

『人からのものだ』と言えば、民衆はこぞって我々を石で殺すだろう。ヨハネを預言者だと信じ込んでいるのだから。」

民衆はヨハネを神から遣わされた預言者だと信じていました。それゆえ、そのヨハネを「人からのものだ」と言ってしまうと、民衆からは神を冒瀆したもとして石を投げつけられ、殺されてしまいかねない。結局「天からのものだ」と答えても、「人からのものだ」と答えても自分たちに不利なことになってしまう。彼らはそう考え、イエスに次のように答えました。

「どこからか、分からない。」

彼らは自分たちに不利な状況を作らないために、答えることから逃げたのです。

それを聞いたイエス様は言われました。

「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい。」

このようにイエス様のほうも彼らに答えることを拒否されたのでした。なぜイエス様がこのようにされたのでしょうか。イエス様も彼らの質問から逃げたかったのでした。そうではなかったはずですが。イエス様は答えようと思えば答えることができたはずですが。「わたしは神の子としての権威でこのようにしている。この権威は父である神からわたしに与えられたものだ」と。実際イエス様は「ヨハネの洗礼が天からのものか、人からのものか」と尋ねることによって、ご自分の権威が「天からのもの」、すなわち神からのものであることをほのめかし、暗示しておられます。しかしそのことをはっきりと祭司長や律法学者や長老たちに答えることはされませんでした。それはイエス様が彼らにそのように答えたとしても、彼らは信じないことをご存じだったからでしょう（ルカ 22:67-68 参照）。彼は真理を知りたいという純粋な思いでイエス様に質問したわけではありませんでした。イエス様は彼らに質問し返すことでそのことを明らかにされたのです。彼らは質問にどう答えようと相談しましたが、それは正解が何か、真理がどちらか、ということに相談したわけではありませんでした。彼らが話し合ったのは、どう答えれば自分たちにどのような影響があるのか、どのような益、不利益があるのかということでした。彼らは真理がどちらかということには全く興味がないのです。彼らにとって大切なのは、自分たちの立場、地位や名誉が守られることだけでした。彼らは宗教的な指導者、権威者でありながら、真理を追い求めることなく、ただ自分の保身のことしか考えていなかった。イエス様はこの質問によって彼らの本質を暴露されたのです。

#### ④私たちに与える意味

今日の物語は私たちに与えるどのような意味があるのでしょうか。今日のお話は、権威をもった人間が、イエスの権威を認めず、イエスが教えたり福音を語ったりするのを妨害しようとした、しかしイエスはその権威者たちを返り討ちにされたお話です。こうして人間の権威者ではなく、イエスこそが神から権威を与えられたお方であり、この方にこそ聞き従うべきことが示されています。

現在、私たちの周りに祭司長や律法学者がいるわけではありません。しかし権威、権力を持った人はいます。そして歴史の中でその権威者がイエスの福音が語られるのを妨害しようとするのは起こってきました。それが顕著に起こったのは戦時中です。国家権力が教会にも干渉し、天皇を神とする国家の考え方に従わせようとしてきました。それに抵抗したキリスト者や教会はありましたが、日本の教会は全体としては国家の考えにからめとられていきました。天皇を神とする偶像礼拝を拒絶しきることができ

ず、侵略戦争にも協力していったのです。その時代、教会で語られていた説教も純粋な福音とは言えず、むしろ歪められ、国家の考えに迎合するようなものでした。

しかし教会ではイエス・キリストの教えと福音が純粋に説教され、聞かれなければなりません。そうでなければキリストを頭とする真の教会ではなくなってしまうからです。私たちが聞き従うべきは、主イエスに敵対する人間の権威者の言葉ではなく、天から権威を与えられた神の子イエス・キリストのみ言葉です。いくら人間的な権威と力をもった人物であっても、主イエスの権威を認めず、真理を求めず、自己保身ばかりを追い求め、自分に都合の悪い質問に対しては言葉を濁すような権威者の言葉は聞くに値しない。このことを今日のみ言葉ははっきりと示しているように思います。神から権威を与えられた御子イエス・キリストの教え、その福音、その喜びの知らせにこそ、私たちは聞き従ってまいりましょう。そのようにしてこそ、真のイエス・キリストの教会は建て上げられていくのです。